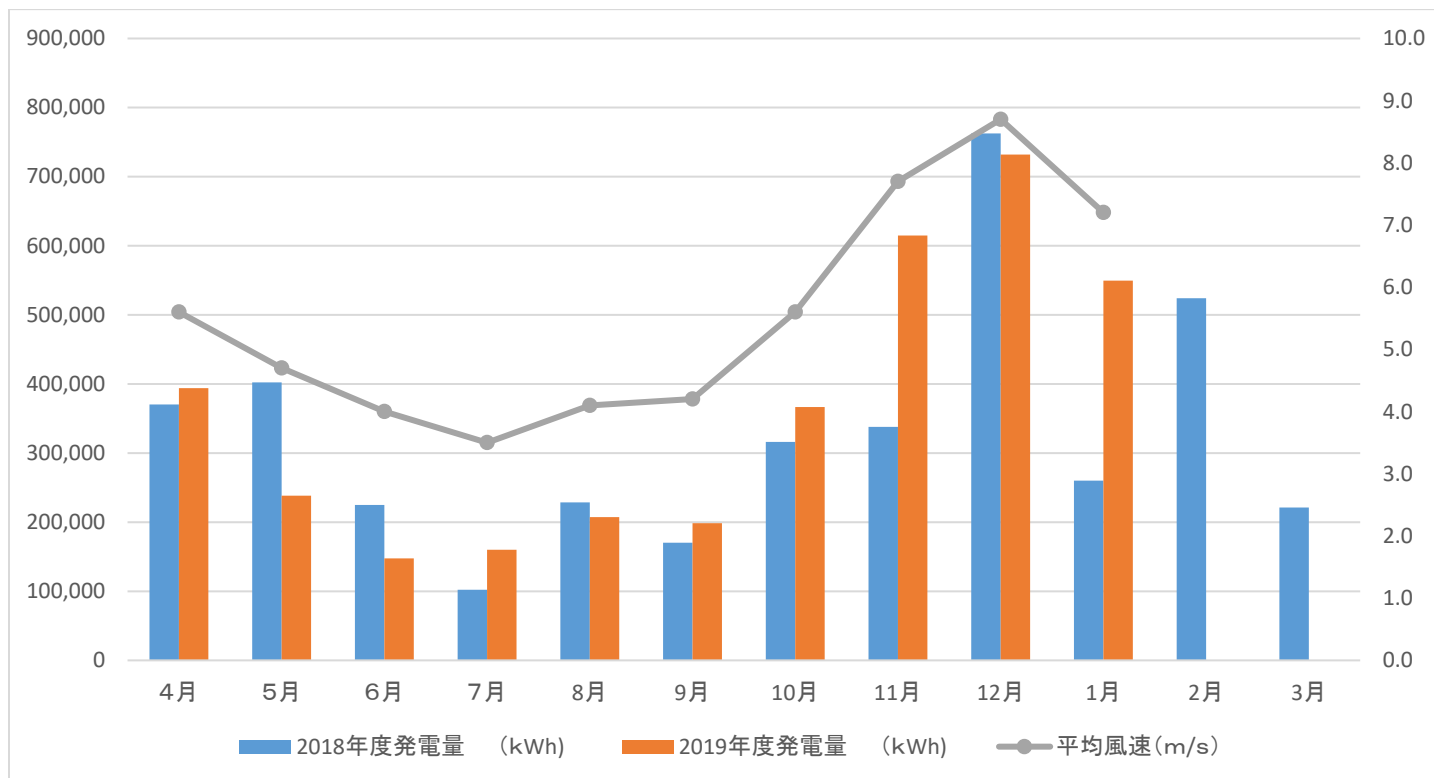


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

○ 発電実績



1月度運転状況について

○平均風速は7.6m/sで、前年同月に比べ4.2m/s低い実績でした。暖冬の影響で、風が弱くなっています。

○前年は、増速機の軸受けに軽度な損傷が認められた為、1/9より保安停止をしました。そのため、前年に比べた発電量は多くなっています。

掛魚まつりは、毎年2月4日の立春の日に行われ、300年も続く歴史あるお祭りです。祭りの主役となる大タラは一匹ずつ荒縄に釣り下げられ、海上安全、豊漁を願って金浦山神社の神前に供えられます。



グリーンファンド秋田では、地域貢献の一環として今年も鰯を奉納させて頂きました。

	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	393,953	5.6	98.3
5月	238,301	4.7	92.4
6月	147,508	4.0	96.9
7月	159,901	3.5	99.6
8月	207,146	4.3	97.7
9月	198,307	4.2	96.6
10月	366,622	5.6	97.8
11月	614,728	7.7	99.4
12月	732,186	8.7	99.0
1月	549,656	7.2	97.6
2月			
3月			



グリーンファンド秋田代表理事
生活クラブ神奈川専務理事 半澤 彰浩

もうすぐ東日本大震災・東京電力(株)福島第一原子力発電所事故から9年目の3.11を迎える。年が明けてすぐ快晴の日に福島原発の近くを訪れる機会があった。

事故を起こしたこの原発は双葉郡大熊町にあり、国道6号線が近くを通る。東京から常磐自動車道を走りいわきで降り、太平洋沿いに国道6号線を北上。広野町、楡葉町を過ぎると富岡町、そして大熊町、浪江町と道路は走っている。この沿道は不思議なことにやたらコンビニとガソリンスタンドが多い。そして簡易ホテル、宿舎が多い。逆にそれしかない。富岡町に入ると警備会社の人たちが道路で検問をしていた。看板にはここから先は「帰還困難地域、車の停止禁止、歩行禁止」と書いてある。富岡町と大熊町は未だそうした地域である。国道から横に入る道はすべてバリケードが張ってあり入れないようになっている。道路の沿線にある商店や家は震災当時のままの状態に倒壊しかかった家や車、家財道具などむき出しだ。線量も当然高い。大熊町に入ると右側の遠くにうっすら見覚えのある第一原発の建屋が見えた。浪江町に入ると帰還困難地域は解除されるが、津波ですべて流されて何もなくなった大地が広がり、遮るものが何もないので海が大きく見えた。この国道6号線の沿道の空いている場所には除染で除去した放射性物質に汚染された土が入れられたフレコンパックが積まれた山がたくさんあった。6号線は浪江町を過ぎると南相馬市、そしてその西には全村避難になった飯舘村へと続く。飯舘村では2年前に一部地域を除いて避難解除になったが、2年たっても帰村した人は一割にも満たない。車で通ってきた富岡町、大熊町には人がいない。前後の町にもいるのは原発廃炉のための作業をする何千人もの方と警備員の方、そして警察と消防の方たちなのだ。コンビニとガソリンスタンドが多いのはそのためだ。

東京オリンピックの聖火リレーが3/26に福島県楡葉町・広野町「ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ」から、日本全国47都道府県を回るリレーがスタートする。リレーのルート調べてみると私が車で通ってきた町を一部だがすべて通る。JR常磐線は富岡駅から浪江駅間の避難指示が3/14に解除されることになり、東京から仙台が9年ぶりに開通する。オリンピック招致の時に安倍首相が発信した「FUKUSHIMAは、Under Control」という言葉を証明するために、日本は完全に復興したと内外にアピールするために聖火リレーを福島原発の近くから行い帰還困難地域も通る。でも帰還困難地域なのです。廃炉作業も進んでいないし汚染水の処理、放射能で汚染された莫大な除染ゴミをどのようにするか、未だ炉内にある放射能をどうするか、何もすすんでいないのです。完全復興は「全く嘘」なのです。何が本当か、本質を見抜く力、現実を見て判断することが私たちにますます問われる時代だ。そして来年は3.11から10年目を迎える。

グリーンファンド秋田理事会報告

2020年1月28日、2019年度第4回理事会を開催しました。

主な議案は第3四半期決算の承認、2019年度事業の中間まとめと決算予測・2020年度事業方針計画案、高森風力発電所の事業計画ならびに事業移管の進め方、2020年度欧州視察ツアーの開催、にかほ市掛魚まつりへの奉納鯛の拠出、などです。

2019年10月～12月の第3四半期は、風況に恵まれ、発電量は計画比111%となりました。4月～12月では、計画比105%とほぼ計画並みとなっています。

デポー担当者研修をにかほ市で開催しました（その2）

2020年1月16日、17日に、「デポーにかほフェア」の一環として、にかほ市で研修を実施しました。今回は、研修初日から翌日に実施した、4つの夢風ブランド品の生産者の工場見学の様子を紹介します。

1. ㈱飛良泉本舗

荘司浩志営業部長に対応頂き、日本酒の学習を行いました。

日本酒は、玄米の精米歩合で、70%以下が本醸造、制限なしが純米酒、60%以下が吟醸酒、50%以下が大吟醸と呼ばれます。精米した

お米を蒸し、水と酵母を加えて酒母をつくり、出来上がった酒母に水、米麹、蒸米を加えて仕込みます。20～30日発酵させてもろみを絞り、新酒が出来上がります。

「純米大吟醸夢風」は、飛良泉の杜氏が自ら育てた「秋田酒こまち」を50%まで磨いて作ったお酒です。今年は、暖冬でお酒の造りにも影響しているとのことでした。



左端: 荘司営業部長

2. 日南工業㈱

前田和雄社長、服部進一さんにご対応頂き、鰯しょつとろと味噌の学習と工場見学を行いました。

「鰯しょつとろ」は、秋田で水揚げされた鰯に塩をまぶして、発酵させて作られます。「鰯しょつとろ」は、にかほ市の川に遡上する鰯を使用しています。製造工程の説明のあと、実際に発酵槽を見学しました。

「秋田味噌」は大豆を蒸してつぶし、米麹と混ぜて、塩を加えて発酵させます。秋田味噌は大豆と米の割合が1:1の10割味噌です。時間の関係で、味噌は映像で製造工程を見た後、工場を外から見学しました。



右端: 前田社長、右から3人目: 服部さん

3. 伊藤製麺所



伊藤代表

伊藤実代表にご対応頂き、タラーメンの製造工程の見学を行いました。初めに、小麦粉と水、食塩などを混ぜ、ロール状の麺体にし、熟成させます。その後、圧延し、切り出して、麺にします。この麺を2日間かけてゆっくりと乾燥させます。乾燥した麺を裁断し、スープを加えて包装します。

この日はちょうど、タラーメンを製造中で、麺づくりを実際に見ることができました。また、タラーメンのスープをさらに良くしようと、生活クラブ東京の組合員と再開発をすすめているお話も頂きました。

夢風のおかげでにかほ市内の生産者とヨコの関係づくりにつながっていることが嬉しいとのことのお話しが印象的でした。

4. 三浦米太郎商店

三浦悦朗社長にご対応頂き、はたはたの薫製加工の見学を行いました。

秋田で水揚げされたハタハタを塩漬けし、燻製にします。薫製ひとつひとつの中骨を手作業で丁寧にとり除きます。とても根気のいる作業です。

「はたはたおいる漬け」は、これをカットし、香辛料と共に瓶に詰め、熱したオイルを加えた物です。オイルには、生活クラブのなたね油とオリーブオイルを使用しています。



参加されたワーカーズの皆さんからは、「生産者の皆さんが、生活クラブ組合員の意見に耳を傾けて下さっていることがよくわかりました。」「みなさん熱心に材の事を教えて下さったので、理解が深まり、材への思い入れが強くなった。」「生産者が生活クラブと消費材を作り出すことにやりがいを感じていることが伝わってきました。」「それぞれの工場でお話を聞くことで、生産者の思いが一層伝わるような気がしてとても良かった。」などの感想を頂いています。



後ろ左から3人目：三浦社長

コラム 東京電力福島第一原発 汚染水

経済産業省の小委員会が2020年2月10日に正式にまとめた報告書は、汚染水の処分方法について、海洋放出と大気放出が現実的な選択肢で、海洋放出の方がより確実に実施できるとした。

これを受け、風評被害を心配する地元漁業関係団体からは多くの反対の声が上がっている。

経産省が小委に示したとりまとめ案は、①薄めて海に流す海洋放出、②蒸発させる大気放出、③両者の併用の3ケースに絞った議論を提案するものだった。

汚染水は、専用の装置を使った浄化が進むが、トリチウムだけは除去し切れず、汚染水は最終的にトリチウム水になる。処理方法が決まっていないため、東電はとりあえずタンクにためて保管し続けることにしているが、敷地内のタンクにたまる処理済み汚染水は約120万トン。東電は、タンク増設計画は約137万トン分まで、22年夏ごろに満杯になるとしている。

期限を切って「処分ありき」の議論になりかねない状況で、委員からは「敷地内でさらに増設できないか」などの指摘が出たが、東電は、計画以上の増設や敷地外での保管に慎重な姿勢を崩さず、小委は最大限の努力を求めるにとどめた。

さらに、汚染水は、汚染源がなくなる限り放出し続けることになる。東電は1日あたりの汚染水の発生量を18年度の170トンから段階的に減らし、25年に100トンに抑える目標だが、実現は不透明だ。

原発事故から9年を迎えるが、廃炉に向けた課題はまだまだ手つかずの状態だ。

(文責 事務局長 鈴木)